

高  
2020

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で17ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 問題冊子、解答用紙のいずれにも受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。
- 問題冊子を持ち帰ってはいけません。

受験番号	
氏	名
	ふりがな



一 以下の文章は、平野啓一郎の『本の読み方』の一節である。筆者はこの本のなかで、世の中でもてはやされている「速読」に対して、書き手の仕掛けや工夫を見落とさない、一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆっくりと読む「スロー・リーディング」を提唱している。(本文) 以下を読み、後の問に答えなさい。

(本文)

次は少々趣向を変えて、クイズ形式でスロー・リーディングのワンポイント・レッスンをしてみよう。

【問題】 次の例文は、川端康成の『伊豆の踊子』の中の一節である。①「さよならを言おうとした」のは誰か？ また、②「うなずいて見せた」のは誰か？ それぞれ主語を答えよ。

乗船場に近づくと、海際にうずくまっている踊子の姿が私の胸に飛び込んだ。傍そばに行くまで彼女はじっとしていた。黙だまって頭を下げた。昨夜のままの化粧けしやうが私を一層感情的にした。眦まなじりの紅あかが怒おこっているかのよう  
に顔に幼い凛々りりりしさを与あたえていた。栄吉が言った。

「外ほかの者も来るのか」

踊子は頭ふを振ふった

「皆まだ寝ているのか」

踊子はうなずいた。

栄吉が船の切符\*とはしけ券とを買いに行った間に、私はいろいろ話しかけて見たが、踊子は掘割ほりわりが海に入るところをじっと見下したまま一言も言わなかった。私の言葉が終らない先き終らない先きに、何度となく

こくりこくりうなずいて見せるだけだった。

そこへ、

「お婆さん、この人がいいや」と、土方風の男が私に近づいて来た。

「学生さん、東京へ行きなさるだね。あんたを見込んで頼むだがね、この婆さんを東京へ連れてってくんねえか。可哀な婆さんだ。倅が蓮台寺の銀山に働いていたんだがね、今度の流行性感冒で奴で倅も嫁も死んじまったんだ。こんな孫が三人も残っちゃったんだ。どうにもしようがねえから、わしらが相談して国へ帰してやるところなんだ。国は水戸だがね、婆さん何も分からねえんだから、霊岸島へ着いたら、上野の駅へ行く電車に乗せてやつてくんね。面倒だろうがな、わしらが手を合わして頼みてえ。まあこの有様を見てやつてくれりや、可哀だと思いなさるだろう」

ぼかんと立っている婆さんの背には、乳呑児がくくりつけてあった。下が三つ上が五つくらいの二人の女の子が左右の手に捉まっていた。汚い風呂敷包から大きい握飯と梅干とが見えていた。五六人の鋤夫が婆さんをいたわっていた。私は婆さんの世話を快く引き受けた。

「頼みましたぞ」

「有難え。わしらが水戸まで送らにゃならねえんだが、そうも出来ねえでな」などと鋤夫達はそれぞれ私に挨拶した。

はしけはひどく揺れた。踊子はやはり唇をきつと閉じたまま一方を見つめていた。私が繩梯子に捉まろうとして振り返った時、<sup>④</sup> さよならを言おうとしたが、それも止して、もう一ぺんただ<sup>⑤</sup> うなずいて見せた。はしけが帰って行った。栄吉はさつき私がやったばかりの烏打帽をしきりに振っていた。ずっと遠ざかってから踊子が白いものを振り始めた。

さて、どうだろうか？ 私か、踊り子か？ —— 正解と解説は、作者自身にお願いしよう。

はじめ、私はこの質問が思いがけなかった。踊子にきまっているではないか。この港の別れの情感からも、踊子がうなづくのでなければならぬ。この場の「私」と踊子との様子からしても、踊子であるのは明らかではないか。「私」か踊子かと疑ったり迷ったりするのは、読みが足りないのではなからうか。

「もう一ぺんただうなずいた。」で、「もう一ぺん」とわざわざ書いたのは、その前に、踊子がうなずいたことを書いているからである。

(中略)

ところがしかし、読者の質問の手紙にうながされて、疑問の個所を読んでみると、その文章だけをよく読んでみると、「私」か踊子かと迷えば迷うのももつともだと、私ははじめて気がついた。「私が縄梯子に捉まろうとして振り返った時、さよならを言おうとしたが、それも止して、もう一ぺんただうなずいて見せた。」では、「さよならを言おうとした」のも、「うなづいた」のも、「私」と取られるのが、むしろ自然かもしれない。しかしそれなら、「私が」ではなくて「私は」としそうである。「私が」の「が」は「さよならを言おうとした」のが、私とは別人の踊子であること、踊子という主格が省略されていることを暗に感じさせないだろうか。それにしても、「(踊子は) さよならを言おうとした」の踊子という主格を省略したために、読者をまどわせるあいまいな文章となった。英訳者のサイデンステッカー氏も「私」としている。

As I started up the rope ladder to the ship I looked back. I wanted to say goodby, but I only nodded again.

川端康成 『私の文学』(講談社文芸文庫『草一花』三〇〇〜三〇二ページ、新仮名遣いに変更)

① 名文と悪文とは紙一重かもしれない。作者にとって、この問いは愚問と感ぜられただろう。しかし、<sup>②</sup>書き手と読者とのこうした行き違いが起こるのが文章である。

誤読の原因をまとめると、こうだ。作者としては、まず「話の流れ」から、当然、主語は踊り子のはずじやないかとしている。この「流れ」の読み違いが読者との間で起こるのはある程度仕方がない。しかし、その「流れ」を確かなものとする工夫は凝らされている。

この誤読の<sup>③</sup>致命的な点は、やはり「もう一ぺん」の読み落としだろう。これによって、「うなづいた」のが踊り子であることが分かれば、自動的に「さよならを言おうとした」のもまた踊り子であることが分かるはずだ。スロー・リーダーとしては、ここは押さえておきたいところだ。

また、**助詞に着目する**という鉄則に従えば、「私がさよならを言おうとしたが、それも止<sup>よ</sup>して、もう一ぺんた<sup>だ</sup>うなづいて見せた」は、不自然であることが分かるだろう。日本語は英語のような言語と違い、主語の省略が頻繁で、述語との関係が必ずしも明確でない場合があるが、そのときには、**主語を受ける格助詞が「は」「か」「が」**かを見ること<sup>④</sup>によって、この例のようにそれを特定できることが多い。

④ スロー・リーディングのテクニクとして、外国語に翻訳してみるというのがあったが、これは主語を特定するという意味でも効果があるだろう。サイデンステッカーの英訳が主語を取り違えているのも面白い。高名な日本文学研究者も誤読しているのだから、ここでうっかり主語を「私」だと思ってしまった人も、落ち込む必要はない!?……かもしれない。

⑤ 川端康成というと、いわゆる「新感覚派」の代表作家で、一般には詩的で感性的な美しい文章を書いた人、というイメージだが、こうした自作の解説を読むと、他方で彼の批評家的な資質も垣間見える。さすがに自作だけにかなり丁寧な分析だ。実は、このエッセイには興味深い続きがある。

「伊豆の踊子」はすべて「私」が見た風に書いてあって、踊子の心理や感情も、私が見聞きした踊子のしぐさや表情や会話だけで書いてあって、踊子の側からはなになに一つ書いてない。したがって、「(踊子は) さよならを言おうとしたが、それも止して」と、ここだけ踊子側から書いてあるのは、全体をやぶる表現である。

踊子になにか言いそうにしたらしいが、それが「さよなら」という言葉であったかどうかは、「私」にはわからない。あるいは、この「さよなら」はただなにか別れのあいさつの言葉という意味であったにしても、「言おうとしたが」は「私」が見た書き方ではない。「それも止して」もよくない。英訳は踊子ではなく「私」になっているが、「それも止して」は省かれている。また、「踊子はやはり唇をきつと閉じたまま一方を見つめていた。」の「一方」も、一方とはどちらなのか。ここではあいまいな「一方」であるはずがない。こんな風だから、主格の一語を補うだけですまなくて、旧作の三四行を書き直さねばならないとなると、私は重苦しい嫌悪にとらえられてしまう。もし仔細にみれば、全篇ががたがたして来そうである。

(同三〇二〜三〇三ページ、新仮名遣いに変更)

⑥ そうだ、それで間違っただんだ！ という人もいるのではないだろうか？ ここで言われていることは、前段で見たような単純な誤読、読み落としよりも、もう少し内容的に深い話だ。

川端康成は、『言おうとしたが』は、『私』が見た書き方ではない(強調筆者)と謙虚に反省しているが、たとえば、日常のこういう会話はどうかだろうか？

「それで、向こうはまだ何か言おうとしてただけど、腹が立ったから、ムシしてやった！」

これは不自然と感ぜられるだろうか？ 厳密に言えば、「言おうとしてたみたいだ、ったけど」だろう。例文も、「さ

よならを言おうとしたようだったが」とすれば誤解はなかったはずだ。もちろん、その場合も、「さよなら」という具体的な文句については、たとえば、母親が子供に、「良子おばちゃんにさよなら言っなきゃ」と言ったり、走っていった子供が、別に「バイバイ」と言ったとして悪くはないように、文字通り「さよなら」という言葉を口にすることを意味しているのではなく、別れの挨拶をすることの<sup>⑦</sup>慣用的表現として「さよならを言う」という言い方が用いられていると解すべきだが。

しかし、これを果たして、文法に厳密に言い換える必要があるだろうか？ 私たちは、たとえば、文法上は「事実」として語っているとしても、話者が一人称である以上、それが「推量」に過ぎないことを知っている。「みただった」、「ようだった」は、聞き手、あるいは読み手の心の中で補われている。

それが、どの程度「事実」と近いのか——勝手な思い込みなのか、状況から明らかなのかは、<sup>⑧</sup>ケース・バイ・ケースだ。私たちは、コミュニケーションの中で、<sup>⑨</sup>ある程度暴力的に相手の心情を仮定するという作業を日常的に行っている。そして、相手の言動から、その仮定を微調整する。『伊豆の踊子』の「私」も、何年か経って、踊り子とのいろいろな思い出を回想したとき、<sup>⑩</sup>別れの際に、彼女は「さよならを言おうとした」のではなかったと考えるようになるかもしれない。

<sup>⑪</sup>一人称体小説では、一見、作者としての超越的視点が不意に混入させたとと思われるような三人称の登場人物の内面への言及が、実は、私たちのコミュニケーションの一般的な前提に由来しているに過ぎないということがよくある。ここでの誤読は、「言おうとした」という意志に関わる表現だから、主語は話者だろうというものだったが、言葉によって他者と関わり合う際には、それが常に、こうした「事実」と「推量」との間の曖昧な仮定に基づいているものであることをよく理解しておきたい。

\* (注) はしけ券 大型船と陸との間を往復して客を運ぶ小船に乗るためのチケット

問一 傍線部①「名文と悪文とは紙一重かもしれない」とあるが、これはどのようなことか、次から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 名文と言われる文章も、読みようによっては誤読の可能性をもった悪文であることも多いということ。

イ 名文と言われる文章は、人によっては誤読してしまうような意味があいまいな悪文であるということ。

ウ 名文と言われる文章は、もともと多様な解釈ができる文であって、そういう意味では悪文にならざるを得ないということ。

エ 名文と言われる文章には、悪文的な要素は必ず含まれており、場合によっては悪文と認定されるということ。

問二 傍線部②「書き手と読者とのこうした行き違いが起こるのが文章である」とあるが、ここで筆者が言いたかったことは、どういうことか、次から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 書き手と読者との行き違いがあるからこそが名文と言われる文章の条件であるということ。

イ 書き手の意図が読者に完全には伝わらないからこそ、名文という評価が可能だろうということ。

ウ 読者のまじめな疑問が愚問と感じられるような気持ちのすれ違いが文章を間にはさむとよく起こってしまうということ。

エ 書くという行為と読む行為の間には、どうしてもこのような行き違いが起こりがちになってしまいうということ。

問三 傍線部③「致命的な」、⑦「慣用的表現」、⑧「ケース・バイ・ケース」の本文中の意味として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

③致命的な

- ア ひどく注意不足な
- イ 取り返しがつかない
- ウ 数多くひどい
- エ この先が長くない

⑦慣用的

- ア 世の中で広く使われている
- イ 自分自身がよく使っている
- ウ なんでも受け入れて使う
- エ 正式な場で使われている

⑧ケース・バイ・ケース

- ア 事柄ごとの判断による
- イ その場の雰囲気による
- ウ 事情ごとの好悪による
- エ その人の気持ちによる

問四

傍線部④「スロー・リーディングのテクニクとして、外国語に翻訳してみるとというのがあったが、これは主語を特定するという意味でも効果があるだろう」とあるが、なぜこのように言えるのか、次から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本語を英語などの外国語に翻訳する際に最も難しいことは、助詞をどう言い換えるかであり、主語を受ける格助詞について明確に特定できるから。

イ 日本語と異なり、英語などの外国語は主語を省略しないので、翻訳をしようとしたら、主語が何かを考  
えなければならなくなるから。

ウ 日本文学を英語などの外国語に翻訳できるほどの語学力を身につけたならば、主語の特定などでは間違  
えることなくなるから。

エ 英語などの外国語に翻訳するためには多大の時間が必要となるが、それだけの時間を覚悟すれば、自然  
とスローリーディングの技術が身につくから。

問五

傍線部⑤「川端康成というと、いわゆる「新感覚派」の代表作家で」とあるが、これについて以下の二つ  
の問に答えなさい。

① 川端康成の作品として著名なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雪国    イ 破戒    ウ 細雪    エ 潮騒

② 川端康成はノーベル文学賞を受賞したが、日本文学で同賞を受賞した作家を次から一人選び、記号で  
答えなさい。

ア 夏目漱石    イ 三島由紀夫    ウ 大江健三郎    エ 村上春樹

問六 傍線部⑥「そうだ、それで間違ったんだ！ という人もいるのではないだろうか？」とあるが、ここでい

う「それ」とは何を指すか、次から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア もし主格の一語を補ったら、この小説の一部は書き直しが必要となり、全篇ががたがたして来そうになっ  
たこと。

イ 踊子が見つめていた「一方」がどちらなのか、あいまいなままであったこと。

ウ この小説の英訳では、主語が「私」になっており、さらに「それも止して」が省かれてしまっていたこと。

エ この小説全文が「私」の視点から書かれていたのに、この部分だけが踊子の視点から書かれていたこと。

問七 傍線部⑨「ある程度暴力的に相手の心情を仮定するという作業を日常的に行っている」とあるが、これは

どのようなことか、次から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 会話の相手の思いを全く無視したようなやりとりを時にはしてしまっているということ。

イ 会話の相手の気持ちを一方的に決めつけ、それを前提にしたやりとりをしているということ。

ウ 会話の相手に圧力をかけるような表現を使って、自分に有利なやりとりをしがちだということ。

エ 会話の相手に嫌悪感をもたせるような言葉づかいでやりとりをしてしまうことがあるということ。

問八 傍線部⑩「別れ際に、彼女は「さよならを言おうとした」のではなかったと考えるようになるかもしれない」

とあるが、それはなぜか。次の [ ] にふさわしい語を本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

その時、「私」は「さよならを言おうとした」と踊り子の心情を仮定したが、その後 [ ] した結果、違っ  
た心情を推量する可能性もあるから。

問九 傍線部⑪「一人称体小説」とあるが、ここで言う「一人称体小説」とは、どういうことか、次から最もふ

さわしいものをも一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主人公が「私」である小説

イ 小説のなかで一人称が「私」と表記されている小説

ウ 小説の語り手が「私」である小説

エ 小説の登場人物がみな「私」と自分を呼ぶ小説

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、天竺の人、宝を買はんとために、錢五十貫を子に持たせてやる。<sup>①</sup> 大なる川の端を行くに、舟に乗りたる人あり。舟の方を見やれば、舟より亀、首をさし出したり。錢持ちたる人立ち止りて、この亀をば、「何の<sup>②</sup>料ぞ」と問へば、「殺して物にせんずる」といふ。<sup>③</sup> その亀買はん」といへば、この舟の人曰く、いみじき大切の事ありて、設けたる亀なれば、いみじき価なりとも、<sup>④</sup> 売るまじき由をいへば、なほ<sup>⑤</sup> あながちに手を摺りて、この五十貫の錢にて、亀を買ひ取りて放ちつ。

心に思ふやう、親の、宝買ひに隣の国へやりつる錢を、亀にかへてやみぬれば、<sup>⑥</sup> 親、いかに腹立ち給はんずらん。さりとてもまた、親のもとへいかであるべきにあらねば、親のもとへ帰り行くに、道に人のゐていふやう、「ここに亀売りつる人は、この下の渡にて、舟うち返して死ぬ」と語るを聞きて、親の家に帰り行きて、錢は亀にかへつる由語らんと思ふ程に、親のいふやう、「何とてこの錢をば返しおこせたるぞ」と問へば、子のいふ、「さる事なし。その錢にては、しかじか亀にかへてゆるしつれば、その由を申さんとて参りつるなり」といへば、親のいふやう、「<sup>⑦</sup> 黒き衣きたる人、同じやうなるが五人、おのおの十貫づつ持ちて来たりつる。これそなる」とて見せければ、この錢いまだ濡れながらあり。

<sup>⑧</sup> はや買ひて放しつる亀の、その錢川に落ち入るを見て、取り持ちて、親のもとに、子の帰らぬさきにやりけるなり。

『宇治拾遺物語』より

\* 川の端…川のほとり

\* 親のもとへいかであるべきにあらねば…親のもとに行かないですませるわけにもいかないの

\* さる事なし…そんなことはありません

問一 傍線部①の主語は誰か、最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 天竺の人    イ 銭持ちたる人    ウ この舟の人    エ 亀売りつる人

問二 傍線部②を含む「何の料ぞ」は「この亀は」何のためか」と訳すが、その場合の「料」をあらわす意味と

して最もふさわしい熟語は次のどれか、最もふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア 材料    イ 料理    ウ 料金    エ 送料

問三 傍線部③の口語訳として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア その亀を買うことはできません    イ その亀に買ってもらいましょう  
ウ その亀は買いません    エ その亀を買いましょう

問四 傍線部④とはどのような理由か、文中より二十字で抜き出しなさい。

問五 傍線部⑤の言葉の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ゆっくりと    イ 楽しみに    ウ 一所懸命に    エ なによりも

問六 傍線部⑥で主人公は何故親が怒ると考えたのか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 宝を買いに隣国へ行かせた息子がお金を失くして戻ってきたから。

イ 宝を買いに隣国へ行かせた息子が途中でそのお金を亀に換えてしまったから。

ウ 宝を買いに隣国へ行かせたはずなのに、その息子が大好きな亀を買ってしまったから。

エ 宝を買いに隣国へ行かせたはずなのに、理由もなくそのお金を使い果たしてしまったから。

問七 傍線部⑦とは本当は何であったか、文中から抜き出しなさい。

問八 傍線部⑧の口語訳として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 実は、買ったのに逃げてしまった亀が、お金が川に落ちるのを見て拾い上げ、子供が帰る前に親のところに行つて告げ口をしたのである。

イ 実は、子供に逃がしてもらった亀が、川に落ちているお金を見て感謝しようと子供の家に向かったが会うことができず、親にお金を渡したのである。

ウ 実は、買って逃がした亀が、お金が川に落ちるのを見てそれを拾い上げ、親のところへ子が帰る前に届けていたのである。

エ 実は、逃げた亀にお金を払ってしまった子供が家に帰る前に、後悔した亀が謝ろうと親のところにお金を届けたのである。

問九 『宇治拾遺物語』と同じジャンルの作品は次のどれか、一つ選んで記号で答えなさい。

ア 源氏物語   イ 万葉集   ウ 今昔物語集   エ 徒然草

三 次の問いに答えなさい。

① 慣用句「魚心あれば水心」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 生まれや育ちによって人の性格は変わるものである。

イ 一方が好意を示せばもう一方も自然と好意を持つようになる。

ウ 同じ志をもつ多くの仲間の中にいると気持ちがとても落ち着く。

エ 似たような習慣を持っていると自然と同じような傾向になる。

② 「夕日<sup>レ</sup>で空が赤く染まった」の「で」と同じ意味・用法のものを次から選び、記号で答えなさい。

ア お母さんが笑顔で優しく迎えてくれた。 イ 生徒たちは学校で勉強をしている。

ウ 今日はひどい風邪で会社を休んだ。 エ 将来はアメリカの大学で学ぶつもりだ。

③ 空欄にふさわしい四字熟語を次から選び、記号で答えなさい。

まずリーダーが□□□□しなければ、どんなに格好いいことを言っても部下には伝わりません。

ア 率先垂範 イ 頑固一徹 ウ 以心伝心 エ 紆余曲折

④ 次の中から「隠喩」を含んだ例文を選び、記号で答えなさい。

ア 今日は投手の球が走っている。 イ 彼はガラスの心を持っている。

ウ トンネルを抜けるとそこは雪国だった。 エ いわゆる医者のような風をしている。

⑤

次の傍線部の敬語をどう改めたらよいか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

「先生、父が明日伺いたいとおっしゃっていました。」

ア 話されました    イ 言っていました    ウ おっしゃいました    エ 申しおりました

四 次の傍線部の読み仮名を答えなさい。

- ① 父の堅実な生き方を手本にします。
- ② 両者の優劣が次第に露わになっていきます。
- ③ 有無を言わせない指令が上司から出ています。
- ④ 子どもたちが健やかに育つ環境が必要です。
- ⑤ 竹馬の友と再会できるとてもうれしく思います。

五 次のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

- ① 鋭い目で新たな時代の幕開けをヨケンしています。
- ② グラスにスイテキがっています。
- ③ ユウワクに負けないように気をつけています。
- ④ マンガは日本文化の一翼を担っています。
- ⑤ 土地売買のチュウカイを仕事にしています。

